勝連城跡周辺回遊観光整備基本計画の策定に向けた 各関係機関・活動団体等意向調査結果

1. 調査概要

- 目的：回遊路観光への関わりが想定される関係者である「個別の管理主体」「インフラ管理主体」「活動主体」にヒアリングを実施し、キーパーソンを発掘するとともに、管理運営体制への参画を啓発する
- 実施方法：ヒアリング形式
- 実施場所：各関係機関・団体へ個別訪問
- 実施日：平成26年9月30日（火）、10月1日（水）
- 対象：①うるま市農政課／②うるま市商工観光課／③うるま市農業委員会
④うるま市文化課／⑤うるま市観光物産協会／⑥南風原希の会
⑦うるま市史跡ガイドの会

2. ヒアリング結果概要

<所管課、関連組織>

- 勝連城跡周辺で回遊観光に関連で取り組んでいる事業は、勝連城跡の整備や案内サインの整備など文化・観光に関連する事業が多く、農業や漁業などの産業に関連する事業はない
- 案内サインの整備等は、文化課と商工観光課が調整しながら進めている
- 勝連城跡を活用して様々なイベントが行われている。しかし、勝連城跡は規模が小さく、駐車場も少ないため、大きなイベントができない
- 畑を休ませている時期に、観賞用の花を植えるなどの活用が可能。また、遊休農地の活用も考えられる

<活動団体>

- ボランティアの活動団体であり、特に資金面と人材面に課題を抱えている
- 活動内容の需要が高まってきていることから、メンバー不足やメンバーの負担が過大となっており、新規人材の確保と人材の育成が課題である
- 活動団体との横のつながりがほとんどない

3. ヒアリング結果

①うるま市農政課

<勝連城跡周辺回遊観光に関連する計画について>

- ・現在、勝連城跡周辺回遊観光に関連して、実施している事業はない。
- ・「うるま市農水産業振興戦略拠点施設事業」は前原のジャスコ周辺の事業である。
- ・現在、策定に向けて動いている「人・農地プラン」はソフト事業である。
- ・うるま市農村環境計画は、古い計画であり、現在機能していない。
- ・うるま市が主体となって体験農園は実施していない。

<今後予定している、または想定している事業について>

- ・なし

<勝連城跡周辺の回遊観光を促進するために必要な連携や取り組みについて>

- ・農用地を収穫後に花畑として活用することができる（津堅島で実績がある）
- ・農家の意識が高いので、体験農園ができるかもしれない。
- ・琉球村の牛を使った製糖ができるのではないかな。
- ・漁港でグリーンツーリズム
- ・マングローブ、トントンミー、エコツアー

<取り組みを進めていく上での問題点や課題>

- ・農用地を花畑として活用することは問題ない。ただし、サトウキビの場合は、茎を残すため、花畑として活用することは難しい。葉野菜であれば問題ない。補助があれば取り組みが可能かもしれない。
- ・交通量が増えると農家は困るかもしれない。
- ・農道は、農水課が担当であるが、散策路として設定することが難しいかもしれない。

<キーパーソンについて>

- ・有機野菜づくりに取り組んでいる農家（浜屋周辺）

②うるま市商工観光課

<勝連城跡周辺回遊観光に関連する計画について>

- ・案内板の設置を進めている
- ・5カ国語の道路標識を設置したが、文字が小さく見づらいということがあったため、今後は2カ国語表記として、他の言語の案内はQRコード等で行う。そのため、城郭内にWi-Fi整備を進めている

- ・グスク祭りは観光物産協会が担当しており、商工観光課はノータッチである。
- ・阿麻和利講演は2年に1回行われている。

<勝連城跡周辺回遊観光に関する問題点について>

- ・少人数の観光客に対して、観光ガイドをつけると採算があわない
- ・外国人対応
- ・城郭内の文化資源の案内サインはデザインの調整が必要である
- ・誘導サインは、誰を対象とするかが重要である。文化課では県道や市道にサインを設置する。
- ・勝連城跡でイベントを実施するには、容量が小さく、駐車場も少ない。
- ・離れたところに駐車場を設置し、シャトルバスによるピストンを行うなどが考えられる。

<キーパーソンについて>

- ・観光アドバイザー

③うるま市農業委員会

<農業委員会取り組みについて>

- ・農業委員会は、遊休地の所有者（管理者）に対して、指導を行っている

<勝連城跡周辺の回遊観光を促進するために必要な連携や取り組みについて>

- ・勝連城跡周辺の農地はオクラの産地であり、オクラ作り体験やオクラ料理体験などに活用できるのではないかと。
- ・遊休農地として、利用されていないことは問題である。
- ・観賞用の花なら農地で年中育てて大丈夫である。
- ・農地に花畑にして、その後肥料として利用できるのであれば、問題ない。
- ・牛舎と豚舎による悪臭があり、ハエなどが発生している
- ・勝連城跡周辺の農地は農振地域に指定されており、農地の連担性に配慮する必要がある。

<キーパーソンについて>

- ・与勝地下ダム土地改良

④うるま市教育委員会 文化課

＜勝連城跡周辺の回遊観光を促進するために必要な連携や取り組みについて＞

- ・勝連城跡は昭和 52 年から整備を行っている
- ・現在、勝連城跡の整備計画を作成中である
- ・文化財の保存管理計画は、今年度から次年度までに・・・
- ・文化財設置事業：うるま市になってから統一する⇒今あるのは勝連町のときの計画であり、更新が必要。
- ・案内人の養成講座を実施
- ・勝連城跡には高齢者も訪れるため、マイクロバスが停車できる駐車場が必要。
- ・漁港の活用
- ・村獅子の復元
- ・南風原村文書の展示

＜現在の取り組みに関する問題点について＞

- ・現在、無料で行っている案内を、旅行会社から受ける場合に限り、有料も考えている
- ・今は、案内ガイドに報酬なし
- ・ガイドの人数が少ない
- ・指定文化財の有無で整備
- ・過去に案内サインを設置してもらったことがある（都市計画課から）
- ・声をかけたらやってくれそうだが、システムがない。
- ・農水産整備課（宮城島の例）大石根さん

＜キーパーソンについて＞

- ・ロマンの会のOB
- ・くがにイモのお店

⑤うるま市観光物産協会

＜観光物産協会の取り組みについて＞

- ・あやはしパールライン
- ・うるまーいを史跡ガイドの会と協力して実施している。しかし、うるまーいの伊計島と宮城島のコースは、車での移動が必要なため現在実施していない。
- ・勝連城跡休憩所では、販売マーケティング調査を実施中。
- ・リゾートウエディングを販売している。
- ・島唄あしびは、3回目。今後も継続予定。両日 1,200 名のお客。
- ・伊計島のイベント立ち上げから住民WSをはじめた

- ・ガイドの会と共同でコースを設定⇒モニタリング調査
⇒販売してからブラッシュアップしていく
- ・ガイドの会との調整：ガイドの育成（対応人数がまだ少ない）
- ・体制・安全管理・危機管理が大事

<その他>

- ・管理・運営体制の構築についての検討会の参加は可能。

⑥南風原希の会（緑化活動団体）

<希の会の取り組み>

- ・県道16号線沿いにプランター等に花を植えて美化活動を行っている
- ・最近、こども会と協力して、集落内も美化活動を行っている

<取り組みの問題点・課題>

- ・刈った草の処理
- ・草刈りが追い付かない
- ・作業が危険
- ・県道の管理者である中部土木事務所は年に1回しか清掃を行わない
- ・道具等も自費で購入している

<キーパーソン>

- ・地区内の他の活動団体（夢をつくる会等）

⑦うるま市史跡ガイドの会

<活動内容>

- ・平成20年から活動を実施
- ・勝連城跡休憩所を拠点とした定期案内（水曜日）
- ・うるまーいの窓口予約、うるまーいの案内

<問題点>

- ・定期的に集まれるメンバーが少ない
 - ・費用弁償を考えなければならない
- ⇒教育委員会、協会との接触
- ・ボランティアとして集まったので、外野との接点がない

- 需要が増えているので、スタッフの負担が大きくなっている。
- 案内人の育成
- スタッフ 30 人は必要
- ガイドの会として少なくとも 200 万円は必要であり、それをどのように確保していくかである。
- 南風原集落の資源の説明はできるが、魅力を感じるかは疑問である